

最優秀賞

父の悲劇

福岡市立照葉中学校 1年 鎌田 珠爾

私が幼児の頃に、父が重傷の交通事故に遭い、今でもその後遺症で苦しんでいます。

この話の詳しい内容は、私が小学生になった頃から、今日に至るまでの間、父母から聞いていたことをもとに書き投稿することにしました。

父が、平成十五年の秋、東京都の都道で道路の左側に中型バイクを止めて調整中のできごとです。

荷物を沢山積んだトラックが、バックする時、道路標識を避けるのに気をとられ、そのままバックしてきたのです。

父は、このままでは、轢かれ命が危ない!!と思い

「おーい!!」「おーい危ない!!」

と大声で叫びましたが、父は、バイク共々衝突されたのです。

運よく父の命はとりとめましたが、父は、この事故により、頸椎、上下肢、腰椎、頸椎不眠等重い障害をし、今でもその後遺症のため苦しんでいるのです。

私そして家族の大切な父が可哀想でなりません。

父の交通事故で深く考えたことが、三つあります。

その一つは、一瞬の不注意が大きな悲劇を生み、その人の人生を奪ってしまうことです。

一度失われた人の命、身体の機能は、二度と元に戻ることはできません。

その二つは、決められたルールは、正しく確実に守る心を、決して忘れてはなりません。

人々が、平和で安全な生活をするためには、法律等が定められています。これを守るといふ心をもつことが、絶対必要だと思います。

その三つは、事故の教訓を生かすということです。

毎日毎日発生している交通事故には、必ず反省しなければならない、生々しい教訓があるのではないのでしょうか。

その教えを学び知り、事故を少なくする努力が非常に大切だと思っています。

以上、父の被害事故を述べましたが、残念ながら現在、飲酒運転や居眠り運転、自転車では、傘をさしながら、携帯やヘッドホンをしてながら運転などの、交通事故による被害が、社会問題となっています。そんな今だからこそ、一人一人が、ちょっとしたミスをし、なくしていかなければならないと私は思います。